テロ対策遅れで伊方３号機も来年３月停止予定

マスコミ報道より

全国新聞（朝刊）　2020年(令和2年)3月17日　火曜日

規制委の「命令」回避へ九電

期限前日に川内停止

再稼働急ぐが多い〝関門〟

原発に設置が義務付けられたテロ対策用の「特定重大事故等対処施設」（特重施設）が期限に間に合わず、九州電力は16日、川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）の運転を止めた。期限前日に止めると自ら決め、原子力規制委員会からの停止命令を回避した形だ。電力各社は各地の原発で特重施設の工期短縮を図るが、運転停止は今後も相次ぎ、原発稼働を見込んだエネルギー政策に影響する可能性もある。

テロ対策施設の設置期限
（　）内は電力会社が公表した停止日

川内１号機	2020年３月17日（３月16日停止）
２号機	５月21日（５月20日停止）
高浜３号機	８月３日（８月２日停止）
４号機	10月８日（10月７日停止）
伊方３号機	21年３月22日
高浜１、２号機	６月９日
美浜３号機	10月25日
大飯３、４号機 玄海３号機	22年８月24日
玄海４号機	９月13日
東海第２原発	23年10月17日

原発

「イメージが悪い」

「特重施設なしでも東京電力福島第1原発のような事故への備えは十分だが、より頑健性を増すためだ。期限を延ばせば安全の継続的改善はおぼつかない」。規制委の更田豊志委員長は2月、川内原発の地元関係者との意見交換で強調した。

特重施設は、敷地内の山を切り開き、トンネルを掘るなど工事に時間がかかる。九電や関西電力などは昨年4月、設置が期限に間に合わないと表明。規制委は運転停止を命令する構えを示した。だが九電が10月に停止計画を報告し、規制委は命令を出さないと決めた。

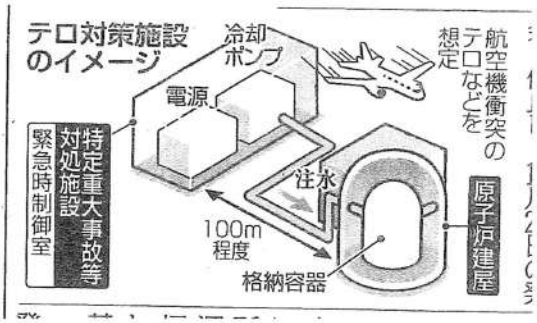
「命令を受けて止めるのは、世間のイメージが悪い」と電力会社関係者。原発再稼働で収益改善を狙う電力会社には、運転停止自体が打撃で、追い打ちを避けたい思いもある。市民団体からは「期限を迎えて新規制基準に不適合となる原発には命令を出すべきだ。規制委は電力会社に配慮しすぎだ」との声もある。

工期短縮に懸念も

九電は、川内1、2号機の特重施設が期限に約1年遅れるとしていたが、工期を短縮し、運転停止は8～9カ月程度になった。関電は高浜3、4号機（福井県）で約1年の想定を4～5カ月程度に見直した。

ただ工期短縮には懸念もある。高浜原発で13日、作業用トンネル内で作業員がトラックにはねられ死亡するなど、特重施設建設作業に関連した労災事故が相次いでいる。更田氏は「労働安全にも注意してほしい」と話す。

規制委は、設備の故障などによる重大事故への対応にも特重施設を使うよう新たに要求している。電力会社は、特重施設の使用開始までに、対応の手順を運用



九州電力川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）がテロ対策施設の完成遅れで16日に停止したことを受け、大分県民からは「安全策をしっかり講じてほしい」「このまま廃炉にすべきだ」などの声が聞かれた。

同機は午後1時ごろに原子炉が止まった。大分市のJR大分駅前にいた豊後大野市千歳町新殿の会社員小野峰宏さん(58)は「電力供給に心配はあるが、万が一を考えると停止は必要だ」と話した。

連日、大分市金池町の九電大分支社前で脱原発を訴えている市民団体「原発いらない！」グループ・大分のメンバーは、この日もプラカードを掲げた。呼び掛け人の島田雅美さん(73)＝同市長浜町＝は「二度と動かしてほしくない」とアピールした。

県内から最短で約45㌔の距離にある四国電力伊方原発3号機（愛媛県伊方町）もテロ対策施設の建設を進めているが、完成は期限の来年3月22日に間に合わない見込み。四国電によると、1年ほど遅れるという。

同原発の運転禁止を求めて大分地裁で訴訟を続ける「伊方原発をとめる大分裁判の会」原告団の中山田さつき共同代表(65)＝杵築市大田＝は「そもそも最低限の対処施設もないのに運転しているのがおかしい。施設が完成しても、原発がある限りは安全ではない」と強調した。（指原祐輔）

特重施設

伊方、1年遅れる見込み

「完成しても安全性疑問」